

目次

まえがき

序 章 「詩と詩論」研究の課題

第一節 詩研究の方法……………一

第二節 日本近代、現代詩研究の基本発想……………三

第三節 「詩と詩論」研究史の回顧……………六

第四節 「詩と詩論」研究の課題……………一二

第一章 「詩と詩論」前史

第一節 昭和初期の日本現代詩の状況……………一七

第二節 「詩と詩論」成立の詩史背景……………二一

第三節 日本前衛詩運動の回顧……………二九

第四節 「詩と詩論」前史……………三七

——成立前の同人の活動と関連……………三七

第二章 「詩と詩論」の成立

第一節 「詩と詩論」成立の意味 …………… 四九

第二節 「詩と詩論」の活動 …………… 五一

第三節 「詩と詩論」と主知主義 …………… 五六

——新精神（エスプリヌウボ）の追求

第四節 「詩と詩論」における欧米文学の受容 …………… 六五

第五節 「詩と詩論」系譜の形成 …………… 七一

第三章 「詩と詩論」の傾向分析（一）

——フォルマリズムの実践

第一節 「詩と詩論」とフォルマリズム …………… 八一

第二節 主知主義とフォルマリズム …………… 八五

第三節 短詩実験から新散文詩運動へ …………… 九三

第四節 フォルマリズムからシュルレアリズムへ …………… 九九

第五節 シネ・ポエムとフォルマリズム …………… 一〇六

第四章 「詩と詩論」の傾向分析(二)

——シユルレアリズムの歩み

第一節 「詩と詩論」とシユルレアリズム 一一三

第二節 西協順三郎について 一一八

第三節 「詩と詩論」のシユルレアリスト達

——シユルレアリズムの諸傾向 一二七

第五章 「詩と詩論」の傾向分析(三)

——ノイエ・ザハリヒカイトの提倡

第一節 「詩と詩論」とノイエ・ザハリカイト 一四五

第二節 村野四郎の詩について 一四八

第三節 笹沢明美の詩について 一五七

第六章 「詩と詩論」の解体

第一節 「詩と詩論」解体へ 一六七

第二節 「詩と詩論」解体のきっかけ 一七七

第三節 「詩と詩論」の継承	一七四
終章 「詩と詩論」の評価	一八一

「詩と詩論」関係年表（一九一七〜一九三四）	一九五
-----------------------	-------	-----

前衛詩の系譜（略表）	二〇五
------------	-------	-----

主な日本前衛詩誌解題（一九二四〜一九五七）	二〇七
-----------------------	-------	-----

——「詩と詩論を中心に」	二〇七
--------------	-------	-----

参考文献 資料、単行本、論文	二一三
----------------	-------	-----